

「将来にわたる持続可能な
財政運営の確保」
を基本方針とした
**平成18年度予算
決まる**

| | | |
|------|---------------|--------------|
| 一般会計 | 113億3,862万7千円 | (対前年比 3.9%減) |
| 特別会計 | 107億9,000万6千円 | (対前年比 7.5%減) |
| 企業会計 | 35億 672万3千円 | (対前年比83.9%増) |
| 合 計 | 256億3,535万6千円 | (対前年比 1.0%増) |

※18年度予算では公共下水道事業は特別会計から企業会計に移行しています。

本市の平成18年度の予算は、昨年度に引き続いて「将来にわたる持続可能な財政運営の確保」を基本方針とし、持続可能な財務体質に向けての取り組み、施策の重点化、民間活力の導入、投資的経費の圧縮、大願寺問題解決のための取り組み、以上6項目を掲げ、歳入歳出予算規模としては113億3千862万7千円で、対前年度比3・9%減の4年連続の緊縮型予算を編成されています。予算特別委員会では、更なる行財政改革の推進について、人件費や委託業務の見直しなどを中心に、熱心な論議が展開されました。

その質疑答弁の一部をご紹介します。

問 大竹中央工業団地への企業誘致活動について尋ねます。また、市としてはどのような業種の進出が望ましいと考えていますか。

答 17年度には39件の企業訪問を実施しています。業種としては、投資意欲が高く、公害の発生しにくいIT関連業者や精密機械系などが挙げられますが、これらに限定しているわけではありません。18年度もそういった特点を視野に入れて企業誘致に取り組んでいきます。

問 簡易水道に要する経費1千624万1千円の内容について尋ねます。

答 松ヶ原地区の水道施設整備にと、議会にも陳情が提出された前飯谷地区における簡易水道施設を22年ぶりに改修するための補助金800万円を計上したものです。

問 日常収集されるトレイ・廃プラスチック類の処分について、将

来的には容器包装リサイクル協会に委託したいとの意向が示されていますが、処分費の節減や廃プラ問題の再発防止を考えれば早急に対応すべきではありませんか。そのために必要とされる施設改善について、具体的な検討はしていますか。

答 当協会に処理を委託するためには、廃プラスチック類を更に分別し、圧縮梱包機による前処理を行う必要があります。現在、環境整備課においては旧焼却炉の煙突の解体工事など、巨額な資金を要する事業が控えており、補助金を活用しながら年次の整備を図っていく必要があります。このため、平成18年度中には圧縮梱包機の導入も含めて、具体的な計画を策定したいと考えています。

問 労働金庫預託金として1億2千万円を計上していますが、市内の勤労者のため有効に活用されていますか。

答 大竹市分の利用状況は、自治体との提携融資として79件で、うち、住宅貸付が34件、約3千100万円。教育貸付が30件、約1千800万円。冠婚葬祭貸付が10件で、約750万円となっています。また、中国労金大竹支店における全体の貸

出金は74億4千100万円と伺っており、勤労者のために活用されているものと判断しています。



マロンの里内の販売所

問 マロンの里の経営状況について尋ねます。また、マロンの里費には884万円の歳出が計上されていますが、今後の運営において利益が生じた場合はどのように考えていますか。

答 年間の売上げは4千600万円、利用状況については、14年度は9万5千人、15年度は9万3千人、16年度は10万人となっています。現在のところ純利益は生じていません。マロンの里費884万円は、主には維持管理・運営及びイベントの委託料として計上しており、今後利益が生じれば、運営業務委託の減額も検討します。

